

俳句集



令和元年度 第十五回

市民俳句会

(小・中学生の部 入選作品)

主催 亀山市・亀山俳句会



選者

宮田正和

石井いさお

上田佳久子

予選

亀山俳句会

亀山西小学校5年生

秀逸 ドングリのぼうしの色はこい茶色
秀逸 かえりみちゆうひにとけるあかとんぼ
秀逸 かんらんしゃまどから見える月がある
秀逸 秋の川はこおろぎ達のえんそう場
秀逸 かたつむりのんびりさんぼどこいくの

かぶと虫みつのとりあいすもうとり
赤とんぼ川畑の上を飛びさつた
いてててくりさんいたいよおこつてる
コスモスが風にゆられてゆらゆらり
あさがおで大にぎわいの家の庭
夏の夜短かく感じて不思議だな
食べたいな空のわたがし人道雲
夜になり祭りのようなホテルたち
赤とんぼ夕焼けこやけの秋の色
夏の夜うちゅうの星が大集合
あたたかな木もれびあびてひと休み
おぼん中祖父母の家は大さわぎ
もみじの木赤と茶色にそまってる
あおぞらにじりじりひびくせみのこえ
盆踊り 赤い光が美しい
きこえたよつくつくぼうし新学期
ナズ虫が次の季節のお知らせだ

あかとんぼはねをなびかせとまってる
徒競走風と一しよにゴールする
すいかわりあっちへこっちへ右左
うみがいい・スイカわりいいなつがいい
あせをかく山をはしって虫取りだ
暑い日は次から次へかき氷
夏まつりお祭り男声をはる
うるこ雲すばやくうごくたいのよう
空き地にはコスモス咲いておどってる
ミンミンとセミから人へ電話する
てんでんと夜空をてらすホテルだよ

亀山東小学校5年生

秀逸 カブトムシ森へさがしにレッツツゴ
秀逸 給食に梅のゼリーが待っている
秋の日は夕日がきれいすこくいい
みずみずしいすいか食べると夏おもう
せんふうきつければ自分もスイッチON
さんま焼く秋の夕ぐれいいにおい
かみなりがゲームのことをじやまをする
かぶとむしとろうとろうでつかいの

亀山南小学校5年生

特選 うきうきとバツタおいかけ一年生

秀逸 どんぐりがコロコロ風でにげていく

秀逸 新米のたける香りではらがへる

さみしいなはらりはらりと銀杏散る

秋風やシュートする手をすりぬける

紅葉道その上歩く子どもたち

朝早くせみとくわがた虫会議

夕ぐれのごはんがこいしい稲の山

トンボとぶいたりきたりおにごっこ

清水のまつかにもえるもみじの葉

亀山南小学校6年生

特選 友達と空を見上げてラムネ飲む

秀逸 花畑むぎわらぼうしが点々と

雨がエルつゆ入り時の平泳ぎ

楽しいね家族でいったホタルの海

白い月となりにさいた赤い花

ひまわりや空に向つてあそんでる

井田川小学校5年生

特選 スイカわりバッキといい音食べたいな

秀逸 とかけの子顔に土つけ夏の昼

秀逸

キラキラとプールの水が星みたい

風りんがはしやぎすぎていいねいる

花火の子ちるたびいったいどこいくの

花火音運動会が始まるぞ

夏休み家族でプール大さわぎ

すずむしがわあわあ鳴いて大げんか

ぼんやりと緑や黄色のホタルかな

雨上り空に広がる虹けしき

土の中小さなマイク飛びだした

たのしいながぞくでおよくなつやすみ

きれいだな夜は虫たち音楽会

お父さん運動会でならぶ列

しんりよくがまどのすきまへにげこんだ

水の中もぐつてみればピカピカと

かき氷ブルーハワイは夏の空

夏景色ジャバジャバと水に音

夏の昼ウッドデッキで目玉焼き

ザーザーと海の音でねむくなる

遊園地いって楽しい夏休み

山のぼりカサカサ歌うもみじかな

大海にむれであらわる秋刀魚かな

はらっぱでとんぼがかけっこうんどうかい

子ども達ガリッと音なるかき氷

セミの声風と一緒にやってくる
夏休み河で遊んで魚取り
なみの音ザブーンザブーンと聞えけり
なつやすみスベイン村に行ったんだ
波の音ザサンとさわぎなっている
運動会最後のくみたい大成功
あさがおがいろんな色で光ってる
エフワンを見ている人があつくなる
家族での沖繩の旅青い海
夏祭り暗やみにちる大花火
いっせいにあがった花火花のよう
やまのぼりはっぱがおちてうつくしい
夏休み川へ行ったら川の音
きらきらとかがやいているひまわりだ
めのまえがもみじのあかでいっばいだ
水の中さかながいっばい大さわぎ
旅行でアジつりしたよぶるぶると
花火大会ドンドンと打ちあげろ

川崎小学校6年生

秀逸

川んぼ道まわりを見ればもういねかり
きもだめしさけびすぎててこえかれる
口ざしあひ元気にセミが鳴いている

美しいせんこう花火花散る
すいかわりこの一発で割れるかな
七夕にひこぼしおりひめ会えたかな
ひまわりの良き彩りに負けぬ君
太陽に向いさき出すひまわりが
家族との絆が深まる夏休み
きらきらとかがやく海に波の音
夕立がおこりはじめた傘開く
七輪のけむりたなびきサバ焼ける
風鈴は金魚が中に泳いでる
太陽に向かいひまわりさいている
夏終わり学校開始がんばるぞ
夏祭り打ち上げ花火でしめくくる
発表会大合唱のセミの声

野登小学校6年生

特選 草原に一輪さいて百合の花

特選 黄の中に緑が少しほたるの灯

特選 森の中光る清水に手をつける

秀逸 夏の空大三角が堂々と

秀逸 ミツマタの卒業証書思い出に

秀逸 逆の花気持ち良さそう澄んだ水

はすの花葉っぱにかくれてかくれんぼ

向日葵は木にもまけない成長だ
山の 中 一 つ 光 が 蛍 かな
はずの花下にいるのはだれなのか
ハスの花にたまった水に映る顔
暑い日は家でギターに集中だ
町中に活気あふれる天王さん
はずの花雨がふっても美しい
戦争だいつも戦うカブトムシ
水たまり 大空映す鏡かな

関小学校5年生

秀逸 なつまつりたいこたたいでうたいだす
秀逸 夏祭り太鼓と笛が大きなわぎ

赤とんぼ大量発生星のよう
月見だんごもちもちしておいしいな
風りんのカラシカラシと風がふき
草むらでコオロギたちが大合唱
秋のじきさんまたべたいでもたかい
あきあかねふたり仲良くたまご産む
お盆中高速道路ぎょうれつに
にぎやかな屋台がならぶ夏祭り

加太小学校5年生

秀逸 いねかりでいなこが山んぼではしゃいでる
秀逸 カブトムシ色と形のかっこよさ
暑くても熱い試合へ甲子園
勇ましい雰囲気かおるカブトムシ
水泳ですこしおよげてまんぞくだ

亀山中学校3年生

特選 セミの声今日も元気に行つてきます
特選 早朝にあさがお見上げ気を高め
特選 窓開けて耳にとびこむせみの声
特選 あぜ道の特等席で見る大花火
秀逸 春になり風のおいが変わりだす
秀逸 湧き水でひっそり暮らす川螺かな
秀逸 夏休み黒い金魚をすくつたよ
秀逸 森の中小さく光る螢かな
秀逸 焼き芋がアルミに包まれ焼かれてる
秀逸 ランドセル小さな背中夢いっぱい
キラキラと川に映つた金閣寺
すいかわり中々切れず包丁で
まぶしくて目がチカチカする夏の空
夏花火家から見ると悪くない
なつかしい知り合いにあう夏休み
曲に乗り打ち揚げ花火色の舞う
夏の夜星の輝き手を伸ばす
桜まう風の強さはちようと良い
夏の空夢追いかけた3年間
暑き日の車の中は地獄です
ひまわりが太陽向いて笑つてる
陽に向かい五本の向日葵背くらべ

夏休み汗の分だけ強くなる
クローバー月日よ戻れあの日まで
校舎から魅せる桜と亀山城
夏の夜新たに増える金魚たち
われさきに蝉がおしゃべり雨あがり
夏休み花火のように消えていく
ずるずるとそうめんすすする夏休み
せみが鳴きまわりすべてがあつくなる
冬の朝まだ明け方の通学路
朝に寝てお昼に起きる夏休み
引き算を間違え電車乗り遅れる
夏祭り探し求めたいちご飴
クリスマスサンタを待つが来てくれぬ
とうろくの炎飛び散る夏祭り
雨の中部活にはげむきみとぼく
水しぶきみんなで遊ぶ水ふうせん
蝉の声聞こえぬ日こそ暑い日や
夏の夜の川辺の光螢かな
雪だるま作つてもすぐとけていく
秋涼の風に流るるクヌギの葉
外に出て歩きたしたらセミの声
さくらさく出会いと別れを告げるため
やりきった白球片手の三年間

鈴鹿川橋から眺める花火かな
かき氷暑さで自分が溶けるかも
花火してみんなの笑顔輝くよ
雨粒があじさいにのり鮮やかに
熱帯夜窓を開ければ蛙の声

中部中学校 3年生

特選 フラスコの重い冷たさ感じけり
特選 制服で初登校の春の朝
特選 しゃぼん玉のぞくと見える異空間
秀逸 雨の玉緑の木の芽輝いて
秀逸 初日見て円の定義を記憶する
秀逸 夏祭り時間のかかる服選び
秀逸 雨上がり水面に虹の橋かかる
秀逸 雨あがりアメンボうかぶ水たまり
秀逸 麦畑毎年みつめ祖父の背を
秀逸 背伸びしたゆかた姿に頬染める
秀逸 つゆの朝かすかにおる雨のにおい
桜色 母思いだす花の色
ピストルの音と同時にプールへと
梅雨明けの一筋の光我照らす
桐一葉風に揺らいで舞い落ちる
母の日だ今日は私がお母さん

青い空のびのび泳ぐこいのぼり
蝉時雨イヤホンの音消されてく
あまガエル里いもの葉でひとやすみ
夏の夜空を見上げてオリオン座
地面から春の始まりフキノトウ
ゆきだるまむかしにもどったわたしたち
扇風機すわってすずむ宇宙人
遠くから帰省した兄くたびれた
青空に天高くとぶ白球が
海のようにぼくの心もすきとおる
夢目指し歩きはじめる春の道
夏祭りピンゴ大会盛り上がる
スイカ割り耳をすましてただ探す
木の下に赤い椿が落ちていく
山越えて雲雀が告げる希望の朝
待ちわびて耳にひさしいセミの声
神秘的心やすらぐ滝の音
ささの葉に静かな虫の秋の夜
夏祭り苺あめ食べて幸せだ
一番に君に会いたい冬の朝
雷が希望の朝を蹴り飛ばす
桜散り花びら浮かぶ夜の川
紅の紅葉散りゆき川染まる

あまがえる一步踏み出すみらいへと
葉布団に落ちるいが栗踏み場なし
夏過ぎて机に向かふ受験生
夏祭りはぐれぬように手をつなぐ
町内の仲間寄り合う盆踊り
エアコンをガンガンきかせ夏こえる
ほくたちの最後の日まで笑いあえ
暗闇に小さな明り蛍かな
夕焼の光りみるほどうつくしい
梅雨明けの晴れた青空なびく髪
夕焼けに向かつて歩く君と僕
風邪ひいたあなたのために林檎かう
しやぼん玉いつかは割れるはかなさよ
夏の試合結果のこさず悔いのこす

関中学校3年生

特選 海の中葉のように舞う魚かな
特選 夏のひかり海の底まで届きけり
特選 鳥唄にハイビスカスも揺れており
秀逸 初夏の旅海の潮風目にしみる
秀逸 せみの声いそがしそうによび合って
秀逸 飛びたいと羽を動かすつばめの子
地で学ぶ平和のもろさ初夏の旅

さとうきび見て思い出す地上戦
沖縄の青空と海輝けり
風鈴やゆらりゆらりとおどりたり
夏空に平和を祈り目を閉じる
夏の旅衰しい歴史忘れずに
早朝の庭やかかやくあまがえる
暑い夏負けるな自分言いきかす
滅っている蛍の光さびしいな
初夏の旅晴れた朝見る蒼き波
沖縄や海が輝く景色かな

高田中学校1年生

台風後パンタグラフの影ゆらり

高田中学校3年生

秀逸 曼珠沙華蔵より出でし火縄銃